



# 『不登校、ひきこもり——こころの解説書 僕がひきこもりだったときに言えなかったこと』



著者 きんば むねあき  
**金馬 宗昭** 氏 (ECC 学園高等学校 教頭)

## 自分の体験を元に「ひきこもる心」を代弁した、ある通信制高校教頭の回顧と解説

通信制高校の教頭という立場にある著者の学校には、全日制高校から転入、編入した生徒や、中学まで不登校で、最初からこの学校に入学した生徒が多く通っている。自分に自信が持てず歩み出すことをためらう生徒たちの中に、著者はいつも「あの頃の自分」を見る。自信をすっかり失い、家から出られなくなってしまった時期の自分を。

著者は、その時期の体験を包み隠さず綴りながら、不登校、ひきこもりやニートの状態にある人の言葉や行動の奥にある真意や理由を解き明かす。

できあがった本を前にした著者に、一冊に込めた思いを聞いた。

### ● 迷いを振り払ってくれた ひきこもりの青年からの手紙

「この本の出版の話は、雑談から生まれました。出版元の「学びリンク」の山口教雄社長から、私たちの学校が取り組んでいる不登校やひきこもりの人たちへの対応についてインタビューを受け、一通り話し終わった後に、何気なく『自分にもそういう時期があるのでわかるんです……』と話し始めたんです。この話は、周囲の人間には話したことがありましたが、長いつき合いになる山口社長に話したのはそのときが初めてだったので驚かれたのでしょうか。後日、この話を書籍化するという提案をいただきましたが、こんな自分の話を本にしていいたらいかならうかという迷いがありました。

そんなとき、S君からの手紙が届いたんです。S君は小学校6年から10年以上の間ひきこもっていた青年です。そこには、『ひきこもっていましたが、ポチポチと動いています』とありました。彼と知り合ったのは10年前で、僕が一方的に手紙や年賀状を送り続けていたんです。彼の手紙が、僕の背中を押してくれました」

### ● 自分にできることがあるとしたら 通訳として彼らの心を代弁すること

「彼の場合、お父さんの理解が少なかった面がありました。10年ぶりに受け取ったこの手紙を読んで、こうした不登校やひきこもり、ニートの人たちを取り巻く子のお父さんやお母さんに、僕が通訳として伝えられることがあるかなと思うようになったんです。

僕は朝が好きなので、早起きして朝の時間を利用して書き進めました。

この本を書くことは、封印していた心の奥の蓋を再び開ける作業でしたから、少し苦しいときもありました。でも、飾らずに書き進めました。

読んだ人が『失敗してもいいんや』『勝つよりも負けた方がいいこともあるんや』って思ってもらえたらうれしいです。たぶん、一生に一冊しか書けない本だと思います」

### ■ 著者プロフィール

金馬宗昭 (きんば むねあき)。1969年大阪府生まれ。現在は京都府在住。奈良大学文学部地理学科を卒業後、京都の公立・私立高校で講師生活をする。その後、数年のひきこもりを経た後、1998年にECC高等学院で勤め始める。現在は、2008年に開校した通信制高校のECC学園高等学校(本校:滋賀県高島市)の教頭。趣味は、スポーツ観戦、釣り。



『不登校、ひきこもり——こころの解説書  
僕がひきこもりだったときに言えなかったこと』  
著者:金馬宗昭 (ECC 学園高等学校教頭)  
出版社:学びリンク 定価:1,260円(税込)  
ISBN978-4-902776-45-4